

様式1（主な取組）

「主な取組」検証票

施策展開	1-(5)-ア	首里城の復興	施 策	②首里城公園の管理体制の強化と首里杜地区の歴史まちづくりの推進
			施策の小項目名	○「新・首里杜構想」による歴史まちづくりの実現
主な取組	首里城跡景観整備事業		対応する成果指標	首里城公園来場者数
施策の方向	・首里城を中心とした首里杜地区において、「新・首里杜構想」による歴史まちづくりの実現に向けて、行政・有識者・住民・企業等の関係者が連携して、自然・歴史・文化を感じる景観の創出に取り組みます。			

1 取組の概要（Plan）

主な取組（アクティビティ）		実施 主体	年度別計画		
			活動指標（アウトプット）		
			R4	R5	R6
首里城跡の景観を著しく損ね、経年劣化等で危険度が増している箇所の修復工事を行い、景観の保全と安全性の確保を図る。		県	景観を阻害し危険度の高い箇所の修復保全	景観を阻害する箇所の調査及び修復保全	
			首里城跡の景観を保全するための整備件数（累計）		
			1件	1件（2件）	1件（3件）
担当部課【連絡先】	教育庁文化財課		【 098-866-2731 】	関連URL	https://www.pref.okinawa.jp/kensei/kencho/1000011/1017799/1017809.html

様式 1 （主な取組）

2 取組の状況（Do）

(1) 取組の進捗状況					(単位：千円)			
予算事業名		首里城跡景観整備事業			予算事業名		首里城跡景観整備事業	
主な財源	実施方法	R5年度 決算額	R6年度 決算見込額		R7年度			
					主な財源	実施方法	当初予算額	
一括交付金 (ソフト)	直接実施	14, 807	39, 084		一括交付金 (ソフト)	直接実施	65, 000	
令和6年度活動内容					令和7年度活動計画			
前年度に続き南城郭石垣と継世門櫓の修復工事を進めつつ、 歓会門櫓及び久慶門櫓の修復に係る調査設計と、西のアザナ城 壁石垣の悉皆調査を実施した。					歓会門櫓及び久慶門櫓の修復工事と、西のアザナ～京の内城 壁石垣の悉皆調査を実施する。			

活動指標名	首里城跡の景観を保全するための 整備件数（累計）		R6年度			進捗状況	活動概要
実績値	R4年度	R5年度	実績値 (A)	目標値 (B)	達成割合 A/B		前年度に引き続いて南城郭石積みと継世門櫓の 修復工事を進めるとともに、歓会門櫓及び久慶門 櫓の修復に係る調査設計委託と、西のアザナ城壁 石垣の悉皆調査委託を実施した。
	1件	1件	1件	1 件（3 件）	100. 0%		

様式1（主な取組）

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果	
○南城郭石垣の解体・積み直しや継世門櫓の修復保全を実施することで、首里城周辺住民や観光客への危険性を除去することができるとともに、往時の景観を体感することが可能となった。 ○歓会門櫓及び久慶門櫓の調査設計委託と、西のアザナ城壁石垣の悉皆調査委託は当初計画通りに年度内で完了した。	
(2) これまでの改善案の反映状況	
令和6年度の取組改善案	反映状況
○当該事業は文化財の修復であるため、公園管理者等や文化庁との綿密な協議を行いながら、文化財としての価値を毀損せず安全性が確保できるように事業を進める。 ○文化財の修復工事に対応可能な業者が限定されていることから、現在国が進めている首里城正殿等復元工事と競合することがないよう、発注時期の調整や事業計画の見直しなどを検討する。	○文化財の修復に際し、公園の使用許可や史跡の現状変更許可が事業計画に影響なく受けられるよう、引き続き公園管理者や文化庁等との協議を進める。 ○文化財の修復工事に対応可能な業者の選定等について、現在国が進めている首里城正殿等復元工事と競合することがないよう、引き続き発注時期や事業計画等の調整を進める。

3 取組の検証 (Check)		4 取組の改善案 (Action)	
類型	内容	類型	内容
① 県の制度、執行体制(内部要因)	当該事業は文化財の修復であることから、事業を円滑に進めるには公園管理者等だけでなく、文化庁との綿密な協議が必要となる。	① 執行体制の改善	当該事業は文化財の修復であるため、公園管理者等や文化庁との綿密な協議を行いながら、文化財としての価値を毀損せず安全性が確保できるように事業を進める。
② 他の実施主体の状況(内部要因)	文化財の修復工事に対応可能な業者が限定されているため、現在国が進めている首里城正殿等復元工事と競合することがないよう、今後の事業計画を検討していく必要がある。	② 連携の強化・改善	文化財の修復工事に対応可能な業者が限定されていることから、現在国が進めている首里城正殿等復元工事と競合することがないよう、発注時期の調整や事業計画の見直し等を検討する。

様式1 (主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	1-(5)-ア	首里城の復興	施 策	②首里城公園の管理体制の強化と首里杜地区の歴史まちづくりの推進
			施策の小項目名	○歴史文化遺産の計画的な整備や歴史・文化を体験できる行催事等の推進
主な取組	円覚寺跡三門復元整備事業		対応する成果指標	首里城公園来場者数
施策の方向	・ 県営公園内の中城御殿跡や円覚寺跡等の歴史文化遺産の計画的な整備や、歴史・文化を体験できる行催事等を推進し、首里城公園の魅力の向上を図るとともに、御茶屋御殿等の地域に点在する文化資源の段階的な整備について、事業主体や保存に係る調査等の課題解決に向けて、那覇市、国と連携して実現可能な方策や観光資源としての利活用の検討に取り組みます。			

1 取組の概要 (Plan)

主な取組(アクティビティ)	実施主体	年度別計画		
		活動指標(アウトプット)		
		R4	R5	R6
国指定史跡である円覚寺跡の公開活用に向けて、発掘調査の成果や古写真等の資料を手がかりに、石牆及び三門の復元に取り組む。	県	円覚寺に存在した木造建造物の三門の復元整備	三門の復元工事の完成並びに、円覚寺の境内の文化財の整備事業に向けた事業計画の策定	
		円覚寺跡三門復元整備		
		復元工事	三門完成	三門公開
担当部課【連絡先】	教育庁文化財課		【 098-866-2731 】	関連URL https://www.pref.okinawa.jp/kensei/kencho/1000011/1017799/1017809.html

様式 1 （主な取組）

2 取組の状況（Do）

(1) 取組の進捗状況				(単位：千円)				
予算事業名	円覚寺跡総合活用整備事業					予算事業名	円覚寺跡総合活用整備事業	
主な財源	実施方法	R5年度 決算額	R6年度 決算見込額		R7年度			
					主な財源	実施方法	当初予算額	
各省計上	直接実施	39,140	92,490		各省計上	直接実施	154,224	
令和6年度活動内容				令和7年度活動計画				
三門本体一層部分の建築を実施した。				三門本体二層部分の建築及び木材の加工・購入等を実施する。				

活動指標名	円覚寺跡三門復元整備		R6年度			進捗状況	活動概要
実績値	R4年度	R5年度	実績値 (A)	目標値 (B)	達成割合 A/B		三門の復元に向けて、本体一層部分の建築工事を 実施した。
	復元工事	復元工事	復元工事	三門公開	60.0%	やや遅れ	

様式1（主な取組）

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果	
○三門の復元に向けて、本体一層部分の建築工事を実施した。また、首里城正殿の火災後の影響で三門にも防火防災設備の設置が必要とされているが、復元工事を進めながら検討を行っていく予定である。 ○進捗状況は、文化庁の予算措置が困難で事業費が不足していることから、「やや遅れ」となっている。	
(2)これまでの改善案の反映状況	
令和6年度の取組改善案	反映状況
○文化庁と三門背後の境内の整備計画の策定の必要性及び重要性について、引き続き協議を行う。 ○これまでに県内の史跡等で整備計画等の策定を受注した業者の情報等の収集を行う。	○三門背後の境内の整備計画の策定の必要性及び重要性について、文化庁と協議を行った結果、沖縄県の計画にしたがって進めることで調整ができた。 ○これまでに県内の史跡等で整備計画等の策定を受注した業者の情報等の収集を行った結果、業者を選定することができた。

3 取組の検証 (Check)		4 取組の改善案 (Action)	
類型	内容	類型	内容
① 県の制度、執行体制(内部要因)	三門の復元後、かつて境内にあった建造物の復元に向けて、首里城正殿等の火災の状況を基本に円覚寺跡復元整備委員会にて、防火防災設備について検討する必要がある。	② 連携の強化・改善	文化庁と三門背後の境内の整備計画の策定の必要性及び重要性について、引き続き協議を行う。
① 県の制度、執行体制(内部要因)	現在復元工事を進めている三門に引き続き、今後の境内の整備や活用方法等について、整備委員会で検討する必要がある。	③ 他地域等事例を参考とした改善	これまでに県内の史跡等の整備計画等の策定を受注した業者の情報収集を行う。
④ 社会・経済情勢の変化(外部環境の変化)	首里城正殿等火災があったことから、円覚寺に所在する建造物の復元計画に基づき、円覚寺跡復元整備委員会において、防火防災設備の計画を策定し、審査を受けたい。	⑥ 変化に対応した取組の改善	円覚寺跡復元整備後の防火防災設備計画等について、現在先行している首里城公園と連携できるよう、関係機関との調整を図る。

様式 1 (主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	1-(5)-ア	首里城の復興	施 策	③首里城に関する文化財等の保護・復元・収集
			施策の小項目名	○首里城正殿遺構の保護対策や公開
主な取組	首里城正殿遺構の適切な保護及び公開		対応する成果指標	首里城関係文化財のWEB公開の累計アクセス件数
施策の方向	・世界遺産である首里城正殿遺構については、損傷の状態を的確に把握し、国と連携しながら保護対策や公開に取り組めます。			

1 取組の概要 (Plan)

主な取組(アクティビティ)		実施主体	年度別計画		
			活動指標(アウトプット)		
			R4	R5	R6
世界遺産である首里城正殿遺構について、損傷の状態を的確に把握し、国と連携しながら保護対策や公開に取り組む。		国県	正殿復元工事開始時期までの公開	正殿復元工事に伴った覆砂による正殿遺構の保護(再公開は正殿復元完成后)	
			沖縄総合事務局が実施する水分量計測のデータを基にした「遺構水分量計測値チェック」の実施回数		
			月1回	月1回	月1回
担当部課【連絡先】	教育庁文化財課		【 098-866-2731 】	関連URL	https://www.pref.okinawa.jp/kensei/kencho/1000011/1017799/1017809.html

様式 1（主な取組）

2 取組の状況（Do）

(1) 取組の進捗状況					(単位：千円)		
予算事業名	－				予算事業名	－	
主な財源	実施方法	R5年度 決算額	R6年度 決算見込額		R7年度		
					主な財源	実施方法	
－	－				－		
令和6年度活動内容					令和7年度活動計画		
首里城正殿復元工事に伴う遺構の毀損等を防ぐため、前年度に実施した覆砂や発泡スチロールを慎重に除去し、遺構の状態確認や水分量計測等を行った。					前年度に引き続き、首里城正殿遺構の保護を図りながら、遺構の状態確認や水分量計測等を実施する。		

活動指標名	沖縄総合事務局が実施する水分量計測のデータを基にした「遺構水分量計測値チェック」の実施回数		R6年度			進捗状況	活動概要
実績値	R4年度	R5年度	実績値 (A)	目標値 (B)	達成割合 A/B		首里城正殿復元工事に伴う遺構の毀損等を防ぐため、前年度に実施した覆砂や発泡スチロールを慎重に除去した後に、遺構の状態確認や水分量計測等を行った。
	月 1 回	月1回	月1回	月 1 回	100. 0%	順調	

様式1（主な取組）

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果	
○首里城正殿復元工事に伴い遺構を保護したが、工事の進捗の関係から前年度に再公開を行う必要性が生じたため、覆砂や発泡スチロールを慎重に除去した後に、遺構の状態確認や水分量計測等を引き続き実施した。 ○今回の取組により、正殿完成後の本格的公開に向けて、遺構の定期的な状態観察と異常が生じた際の保護措置の実施が可能となった。	
(2)これまでの改善案の反映状況	
令和6年度の取組改善案	反映状況
○正殿遺構の再公開については、工事の進捗等から時期を早める結果となったが、公開後も同様の保護措置が図られるよう、文化庁や沖縄総合事務局等の関係機関と協議しながら、適切に対応する。 ○再公開後も引き続き水分量計測を実施しているが、土中の水分が原因で遺構の毀損等が発生した場合は、関係機関と連携して速やかに対応する。	○正殿遺構は再公開後、遺構の状態観察と水分量計測等を継続的に実施している。これらの措置により、正殿完成後の本格的な公開に向けて、遺構の定期的な状態観察と異常が生じた際の保護措置の実施が可能となった。

3 取組の検証 (Check)		4 取組の改善案 (Action)	
類型	内容	類型	内容
② 他の実施主体の状況(内部要因)	正殿完成後の本格的な公開に向けて、遺構を適切に保護していくため、文化庁や沖縄総合事務局等の関係機関と協議しながら、適切に対応していく必要がある。	② 連携の強化・改善	正殿完成後の本格的な公開に向けて、遺構を適切に保護していくため、文化庁や沖縄総合事務局等の関係機関と協議しながら、適切に対応する。
② 他の実施主体の状況(内部要因)	再公開後も水分量計測を実施しているが、土中の水分が原因で遺構の毀損等が発生した場合は、関係機関と速やかに連携して対応する必要がある。	② 連携の強化・改善	再公開後も水分量計測を実施しているが、土中の水分が原因で遺構の毀損等が発生した場合は、関係機関と速やかに連携して対応する。

様式 1 (主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	1-(5)-ア	首里城の復興	施 策	③首里城に関する文化財等の保護・復元・収集
			施策の小項目名	○首里城及び周辺文化財の発掘調査の成果発信
主な取組	首里城及び周辺文化財の情報発信		対応する成果指標	首里城関係文化財のWEB公開の累計アクセス件数
施策の方向	・ 最新デジタル技術を活用し、首里城及び周辺文化財の発掘調査の成果発信に取り組めます。			

1 取組の概要 (Plan)

主な取組(アクティビティ)	実施主体	年度別計画		
		活動指標(アウトプット)		
		R4	R5	R6
デジタル技術等を活用して、首里城及び周辺文化財の発掘調査成果に関する情報を広く発信する。	県	県立埋蔵文化財センターにおける企画展の開催、首里城及び周辺文化財に関する発掘調査成果の情報発信		
		首里城及び周辺文化財に関する企画展の開催回数(累計)		
		1回	1回(2回)	1回(3回)
担当部課【連絡先】	教育庁文化財課	【 098-866-2731 】		関連URL https://www.pref.okinawa.jp/kensei/kencho/1000011/1017799/1017809.html

様式 1 （主な取組）

2 取組の状況（Do）

(1) 取組の進捗状況					(単位：千円)			
予算事業名	－				予算事業名	－		
主な財源	実施方法	R5年度 決算額	R6年度 決算見込額		R7年度			
					主な財源	実施方法	当初予算額	
－	－				－	－		
令和6年度活動内容					令和7年度活動計画			
首里城跡及び周辺文化財の情報を広く発信するため、発掘調査報告書のウェブ発信を行い、埋蔵文化財センター等で企画展を開催した。					前年度に引き続き、首里城跡及び周辺文化財の情報を広く発信するため、発掘調査報告書のウェブ発信を行い、埋蔵文化財センター等で企画展を開催する。			

活動指標名	首里城及び周辺文化財に関する企画展の開催回数（累計）		R6年度			進捗状況	活動概要
実績値	R4年度	R5年度	実績値 (A)	目標値 (B)	達成割合 A/B		
	1回	1回	1回	1 回（3 回）	100. 0%	順調	首里城跡及び周辺文化財に関する情報を広く発信するため、発掘調査報告書のウェブ発信を行うとともに、県立埋蔵文化財センター等で企画展を開催した。

様式1（主な取組）

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果	
首里城跡及び周辺文化財の情報については、発掘調査成果をまとめた報告書の電子データを国立文化財機構奈良文化財研究所運営のウェブサイト「全国文化財総覧」に掲載し、閲覧やダウンロードが可能となることで、広く情報の公開及び発信を行うことができる。また県立埋蔵文化財センターでは、国の重要文化財に指定されている首里城京の内跡出土品を中心とした企画展を毎年開催して、積極的に情報の発信及び公開に努めている。	
(2)これまでの改善案の反映状況	
令和6年度の実施改善案	反映状況
○今後も蓄積される発掘調査成果等の情報については、県立埋蔵文化財センターから「全国文化財総覧」へ逐次掲載を行うよう依頼する。 ○ウェブでの情報発信を進めていない機関については、「全国文化財総覧」の活用等も含め、積極的な公開を促す。	○令和6年度に県立埋蔵文化財センターが刊行した発掘調査報告書の電子データを「全国文化財総覧」に追加で掲載し、広く情報の公開及び発信を行った。 ○国の重要文化財に指定されている首里城京の内跡出土品や、史跡円覚寺跡の企画展と文化講座を実施することで、首里城跡の調査成果等に関する情報発信を積極的に行った。

3 取組の検証 (Check)		4 取組の改善案 (Action)	
類型	内容	類型	内容
① 県の制度、執行体制 (内部要因)	今後も蓄積される発掘調査成果等の情報については、県立埋蔵文化財センターから「全国文化財総覧」へ逐次掲載を行うよう依頼する必要がある。	① 執行体制の改善	今後も蓄積される発掘調査成果等の情報については、県立埋蔵文化財センターから「全国文化財総覧」へ逐次掲載を行うよう依頼する。
② 他の実施主体の状況 (内部要因)	ウェブでの情報発信を進めていない機関については、「全国文化財総覧」の活用等も含め、積極的な公開を促す必要がある。	② 連携の強化・改善	ウェブでの情報発信を進めていない機関については、「全国文化財総覧」の活用等も含め、積極的な公開を促す。

様式 1 (主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	1-(5)-ア	首里城の復興	施 策	③首里城に係る文化財等の保護・復元・収集
			施策の小項目名	○被災した文化財等の修復・復元や琉球王朝時代の文化財等の所在調査
主な取組	県指定文化財の修復		対応する成果指標	首里城関係文化財のWEB公開の累計アクセス件数
施策の方向	・関係機関と連携の下、被災した文化財の修復・復元や国内外に所在する琉球王朝時代の文化財等の所在調査に取り組みます。			

1 取組の概要 (Plan)

主な取組(アクティビティ)	実施主体	年度別計画		
		活動指標(アウトプット)		
		R4	R5	R6
首里城火災により被害を受けた県指定有形文化財(琉球漆器2点)の修理を行う。	県	首里城火災で被災した指定文化財2件の修復		
		修復を終了した文化財の件数(累計)		
		—	1件	1件(2件)
担当部課【連絡先】	教育庁文化財課		【 098-866-2731 】	関連URL https://www.pref.okinawa.jp/edu/bunkazai/madoguchi/soshiki/bunkazai/index.html

様式 1（主な取組）

2 取組の状況（Do）							
(1) 取組の進捗状況							
(単位：千円)							
予算事業名 黒漆菊花鳥虫七宝繫沈金食籠修理事業				予算事業名 黒漆菊花鳥虫七宝繫沈金食籠修理事業			
主な財源		実施方法	R5年度 決算額	R6年度 決算見込額	R7年度		
県単等		補助	791	929	主な財源	実施方法 当初予算額	
					県単等	補助 1,704	
令和6年度活動内容				令和7年度活動計画			
より破損の激しい「黒漆菊花鳥虫七宝繫沈金食籠」の修復に着手を始める。				修理方針に基づき、クリーニング、塗膜押えなどを実施する。			
活動指標名	修復を終了した文化財の件数（累計）		R6年度			進捗状況	活動概要
実績値	R4年度	R5年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B		
	—	1件	1件	1件（2件）	100.0%	順調	令和3年度から3か年かけて、県指定有形文化財「黒漆牡丹七宝繫沈金食籠」の修復が完了し、令和6年度からより破損の激しい県指定有形文化財「黒漆菊花鳥虫七宝繫沈金食籠」の修復に着手した。
進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果							
令和3年度から3年間の修復計画に沿って進めていた県指定有形文化財の琉球漆器1点については、令和5年度内で修復が完了した。当初計画通りに令和6年度からより破損の激しい県指定有形文化財「黒漆菊花鳥虫七宝繫沈金食籠」の修復に着手し、策定された修復計画に基づき修復作業が実施されていることから「順調」と判定した。							
(2) これまでの改善案の反映状況							
令和6年度の取組改善案				反映状況			
○令和6年度より新たに修復を行う予定の文化財については、過去3カ年で修復を実施した文化財よりも毀損が激しいことから、修復の進捗について所有者と適宜情報共有を行う。				○修復の進捗について、適宜所有者および修理技術者と情報共有を行うとともに、修理施設現地において修復の現況確認を行った。			

様式 1 （主な取組）

3 取組の検証（Check）		4 取組の改善案（Action）	
類型	内容	類型	内容
② 他の実施主体の状況（内部要因）	昨年度から修復に着手した被災文化財については、令和5年度で修復が完了した文化財よりも毀損が激しいことから、修復の進捗および方法について適宜所有者および修理技術者と情報共有を行う必要がある。	② 連携の強化・改善	修復の進捗および方法について、適宜所有者および修理技術者と情報共有を行うとともに、修理施設現地において修復の現況確認を行う。

様式 1 （主な取組）

「主な取組」 検証票

施策展開	1-(5)-ア	首里城の復興	施 策	③首里城に関する文化財等の保護・復元・収集
			施策の小項目名	○被災した文化財等の修復・復元や琉球王朝時代の文化財等の所在調査
主な取組	在外琉球沖縄関連文化財調査		対応する成果指標	首里城関係文化財のWEB公開の累計アクセス件数
施策の方向	・関係機関と連携の下、被災した文化財の修復・復元や国内外に所在する琉球王朝時代の文化財等の所在調査に取り組みます。			

1 取組の概要 (Plan)

主な取組(アクティビティ)	実施主体	年度別計画		
		活動指標(アウトプット)		
		R4	R5	R6
令和5年度に米国より返還された琉球国王肖像画の修理に着手する。	県	戦災や火災で失われた文化財情報の補完を目的とした県外・国外に所在する文化財の調査		
		在外琉球沖縄関連文化財の調査地数(累計)		
		—	—	1カ所
担当部課【連絡先】	教育庁文化財課		【 098-866-2731 】	関連URL https://www.pref.okinawa.jp/edu/bunkazai/madoguchi/soshiki/bunkazai/index.html

様式 1（主な取組）

2 取組の状況（Do）

(1) 取組の進捗状況				(単位：千円)		
予算事業名	米国返還文化財調査事業			予算事業名	琉球国王肖像画修理事業	
主な財源	実施方法	R5年度 決算額	R6年度 決算見込額	R7年度		
				主な財源	実施方法	
県単等	直接実施	0	2,432	県単等	直接実施	15,756
令和6年度活動内容				令和7年度活動計画		
有識者による「返還文化財保存修復検討委員会」を設置し、令和5年度に米国より返還された文化財について、詳細な科学分析を実施した。				令和6年度に実施した科学分析の結果に基づき、琉球国王肖像画4点の同時修理に着手する。		

活動指標名	在外琉球沖縄関連文化財の調査地数（累計）		R6年度			進捗状況	活動概要
実績値	R4年度	R5年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B		
	—	—	1カ所	1カ所	100.0%	順調	令和5年度末に返還された琉球国王肖像画と考えられる絵画について、有識者による「返還文化財保存修復検討委員会」を設置し、詳細な科学分析を実施した。

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果	
科学分析の結果、返還された絵画はいずれも琉球国王肖像画「御後絵」の原本であることが確認されたため、取組自体は「順調」と判断した。	

(2) これまでの改善案の反映状況	
令和6年度の取組改善案	反映状況
○有識者委員会など関係機関から、助言を適切に受けて科学分析の手法を決定し、今後の保存修復に向けた体制を整える。	○有識者委員会など関係機関からの助言に基づき、非破壊による科学分析を実施した。科学分析の結果に基づき、令和7年度より4点同時修理に着手する。

様式 1 （主な取組）

3 取組の検証（Check）		4 取組の改善案（Action）	
類型	内容	類型	内容
② 他の実施主体の状況（内部要因）	修理にあたっては、文化庁および有識者より適宜意見聴取を行い、修理技術者との情報共有を行う必要がある。	② 連携の強化・改善	文化庁および有識者委員会から適宜意見聴取を行い、修理技術者との情報共有を行うことで、詳細修理方針を決定する。

様式 1 (主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	1-(5)-ア	首里城の復興	施 策	④首里城に関連する伝統技術の活用と継承
			施策の小項目名	○工芸技術等の伝承者養成に向けた体制の整備
主な取組	無形文化財工芸技術の保持団体・保存会等の伝承者養成事業の実施		対応する成果指標	工芸技術研修（漆芸・木工）累計修了者数
施策の方向	・文化財等保存技術の習得に関する体制や工芸技術等の伝承者養成に向けた体制を整備し、適正な技術の継承に取り組めます。			

1 取組の概要 (Plan)

主な取組(アクティビティ)	実施主体	年度別計画		
		活動指標(アウトプット)		
		R4	R5	R6
琉球王国時代から伝承されている高度な工芸技術を次代に継承するため、国および県の無形文化財工芸技術の保持団体・保存会等の伝承者養成事業を実施する。	国,県	指定文化財工芸技術等の保持団体・保存会等における伝承者養成事業の実施		
		伝承者養成事業の実施件数(累計)		
		9件	9件(18件)	9件(27件)
担当部課【連絡先】	教育庁文化財課		【 098-866-2731 】	関連URL https://www.pref.okinawa.jp/edu/bunkazai/madoguchi/soshiki/bunkazai/index.html

様式 1（主な取組）

2 取組の状況（Do）

(1) 取組の進捗状況						(単位：千円)							
予算事業名			無形文化財（工芸技術）伝承者養成事業			予算事業名			無形文化財（工芸技術）伝承者養成事業				
主な財源		実施方法		R5年度 決算額		R6年度 決算見込額		R7年度					
県単等		補助		2,032		2,046		主な財源		実施方法		当初予算額	
県単等		補助		2,032		2,046		県単等		補助		1,729	
令和6年度活動内容						令和7年度活動計画							
国（6団体）および県（3団体）指定無形文化財工芸技術等の保持団体・保存会等における伝承者養成事業を実施した。						国（7団体）および県（2団体）指定無形文化財工芸技術等の保持団体・保存会等における伝承者養成事業を実施する。							

活動指標名		伝承者養成事業の実施件数（累計）		R6年度			進捗状況		活動概要						
実績値		R4年度		R5年度		実績値(A)		目標値(B)		達成割合 A/B		進捗状況		活動概要	
実績値		9件		9件		9件		9件（27件）		100.0%		順調		国（6団体）および県（3団体）指定無形文化財工芸技術等の保持団体・保存会等における伝承者養成事業を実施する。	

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果

本事業は高度な技術者の養成を目的としており、複数年かかる。実施件数が目標値を達成したことや伝承者の減数がみられないことから、「順調」と判定した。

(2) これまでの改善案の反映状況	
令和6年度の取組改善案	反映状況
○各保存会、市町村との連携をさらに強化し、博物館施設やインターネットなどで本事業の成果発信を図る。	各保存会および各保存会所在の市町村担当課との情報交換をおこない、成果発表会（展示会）の実施状況について確認を行った。

様式 1 （主な取組）

3 取組の検証（Check）		4 取組の改善案（Action）	
類型	内容	類型	内容
⑦ その他（改善余地の検証等）	伝承者養成事業の成果発表会（展示会）を企画するなど、関係機関との連携を行い成果の発信方法を再考する必要がある。	② 連携の強化・改善	令和8年度に大宜味村において開催される全国重要無形文化財保持団体協議会にあわせて、県内所在無形文化財の秀作展の実施について調整を行う。